

古典的な文献の概要 (順不同)

書名	国名	著者・編集者	成立年代	内 容
下学集 カクシユ	日本	東麓破衲 トウロクノハツ	1444年 室町中期	国語辞典全2巻、天地、時節、神祇等 18部門に分け語源、語義、用法を解説。
本草項目 ホンゾウコウモク	中国	李時珍 リジチン	1596年 明代	全52巻、1,891種からなる薬学書、 李時珍が26年がかりで完成した。
本草要正 ホンゾウヨウシヨウ	日本	泉本儀左衛門 イズミトキサエモン	1862年 文久年	動植物の博物書、漢字に振り仮名を 施してあり、当時の発音がわかる。
爾雅 ジガ	中国	儒教では周公と の説がある	紀元前2世 紀頃	中国最古の類語辞典・語釈辞典で全3 巻、日本にも多大な影響を与えている。
錦繡枕 キンシュウマクラ	日本	伊藤伊兵衛 三之丞	1692年 元禄5年	伊藤伊兵衛三之丞糸の数ある園芸書 の中でも代表的な園芸書の一つ。
花壇地錦抄 カダンヂキンショウ	日本	伊藤伊兵衛 三之丞	1695年頃 元禄8年	日本で出版された最初の園芸辞典、 花卉花木の育て方を図入りで解説。
増補地錦抄 ゾウホキキンショウ	日本	伊藤伊兵衛 三之丞	1710年 宝永7年	花壇地錦抄で抜けていた植物を書き加 えたもので合わせると2900種に及ぶ。
公益地錦抄 コウエキチキンショウ	日本	三之丞と息子の 伊藤伊兵衛政武	1719年 享保4年	江戸時代の園芸書、伊藤家は江戸染井 の代々続いた植木職人、園芸家。
和漢三才図絵 ワカンサンサイズエ	日本	大阪の医師 寺島良安	1712年 正徳2年	絵入りの百科事典である。全体は105 巻81冊に及ぶ。本文は漢文で解説。
倭名類聚鈔 ワヨウレイジュシヨウ	日本	勤子内親王 源順が編纂	931~8年頃 平安中期	中国の爾雅の影響を受けた国語辞典。 漢和事典や百科事典の側面も持つ。
神農本草経 シンノウホンゾウキョウ	中国	神農氏末裔と する説と、5世 紀末に陶弘景 (梁)が再構成 したとする説。	南北朝頃 500年頃	中国の本草書、陶弘景は散逸してい た神農本草経の365種の薬草を3種 類に分けて用法を解説。自著『名医 別録』を加え『神農本草経集註』と して復元。このため神農本草経の成 立を5世紀とする説がある。
花壇綱目 カダンコウモク	日本	水野元勝	1664年 寛文4年	日本最初の総合園芸書、図絵はない。 192品種を収録。三之丞に先駆する。
博物誌 ハクブシ	古代 ローマ	大プリニウス	1世紀ごろ	全37巻。動植物の他、天文学、地 理学、鉱物など百科全書的な書。
博物誌 ハクブシ	中国	張華(チョウカ)	3世紀ごろ 三国時代	張華は政治家であったが、文学的才能 にも恵まれ、詩集等も残している。
本草綱目啓蒙 ホンゾウコウモクケイモウ	日本	小野蘭山	1803~1805 文化年間	蘭山が本草綱目の講義をしたものを孫 の職孝(シゴタカ)が整理編集したもの。
重修本草項目啓蒙 チュウシュウホンゾウコウモク			1844年 天保15年	江戸時代には本草綱目の日本語版が 発刊されたが、その解説書の一つ。
農業全書 ノウギョウゼンショ	日本	宮崎安貞 貝原楽軒	1697年、 元禄10年	日本最古の農業書。全11巻あり、最 後の巻は貝原益軒の兄、楽軒の著。

親民鑑月集 シミンカンゲツシュ	日本	土居清良	1650年頃 江戸初期	全30巻の戦国軍記物語、その中に日本最古の農学書を含む。
文明本節用集 ブンメイホンセツヨウシュ	日本	巻末に寺田望南の印記がある	1474年 室町中期	国語辞典、漢字にはルビが付されており、下学集の後に著された。
紙漉必要 カミズキヒツヨウ	日本	大蔵永常	1836年 天保7年	紙を作る原材料や紙をすく手法を始め当時の紙の産地などを記している。
和爾雅 ワニガ	日本	貝原好古	1694年 元禄7年	爾雅を見習って作った類語辞典、漢語の意味を分類して解説。全8巻。
日本釈名 ニホシヤクミョウ	日本	貝原益軒	1699年 元禄12年	江戸中期の語源辞典、和語を23項目に分類して五十音に配列して解説。
花譜 カ			1694年 元禄7年	博物学者であった貝原益軒は多くの著作物を出版しているが、花譜は菜譜とともに全3巻からなる。植物の分類や栽培方法を記した書。一方、菜譜は栽培野菜の解説書で、大和本草は日本で300年前にどんな植物が栽培されていたかを調べた貴重な資料である。
菜譜 ナフ			1704年 宝永元年	
大和本草 ヤマトホンゾウ			1709年 宝永6年	
山海経 カガイキョウ	中国	伯益とされるが不明	古代から漢代ごろ	各地の動植物、鉱物が記され伝説的地理認識に基づく古代中国の地理書。
西溪叢話 セイクイソウワ	中国	姚氏(ヨウシ)	8世紀頃 唐代	芳香の強い木々を客人にたとえて解説している、いわば趣味本。
本草図譜 ホンゾウズフ	日本	岩崎灌園	1828年 文政11年	日本最初の植物図鑑、版刻もされたが多くのものは筆写で、彩色されている。
日本植物誌 ニホシヨクブツシ	ライプヒ	ツェンベリー	1784年	著者はキヤキなど日本の植物に学名を与えて、ヨーロッパに紹介している。
日本植物誌 ニホシヨクブツシ	ワシタ	シーボルト	1835~1870	日本人絵師川原慶賀などの下絵を元に作成され全30分冊に及ぶ。
新撰字鏡 シンゼンジキョウ	日本	僧侶昌住	900年頃 平安時代	現存する我が国最古の漢和辞書、但し現存するのは増補版の写本で全12
本草和名 ホンゾウワミョウ	日本	後醍醐天皇の侍医、深根輔仁	10世紀初頭 延喜年間	現存する日本最古の薬物辞典。中国の植物名に日本名を当てている。
草木図説 ソクボクズセツ	日本	飯沼慾斎	1860年頃 安政・文久	日本では最初の近代的な草木図鑑で1,215種を彩色し、図説している。
東雅 トウガ	日本	新井白石	1717年 享保2年	全20巻に及ぶ語学書。爾雅にならって名詞を15分類し語源的な解釈をする。
訓蒙図彙 キンモウズイ	日本	中村惕斎(儒学者)	1666年 寛文6年	絵入百科事典で、以後、寛文8年元禄8年、寛政元年に増補改訂版が出ている。
草木奇品家雅見 ソクボクキヒンカガミ	日本	増田繁亭金太郎 青山の植木職人	1827年 文政10年	園芸書で特-斑入り種や変り花種を奇品として、その所在を記録し、収録。
閩書南産誌 ミンショウナンサンシ	中国	和刻本は儒医大江都賀による	16世紀 明代	中国福建省の地誌で全754巻、このうち南産誌は第150、151巻に当たる。

新スペイン動植 鋳物誌	スペイン	フランシスコ・ エルナンデス	1651年	スペインの博物学者がメキシコ調査中にまとめて没後に出版された。
類聚名義抄 ルビョムヨウキョウ	日本	法相宗の 学問僧	11～12世紀 平安末期	漢和辞書で仏・法・僧の3部門に分け、更に上、中、下に分けている。
花史左編 カサヘン	中国	王路	1617年	園芸書より文学書の色彩が濃く、花の形状や栽培法の他、故事などを収録。
齊民要術 セイミンヨウジュツ	中国	賈思勰 (カキョウ)	532年頃	全10巻からなる総合的な農業書。穀、蔬菜、果樹、桑麻などの栽培法から畜産や酒、酢などの醸造までを記述。
桃源遺事 トウゲンジ	日本	徳川光圀 三木之幹他	1701年 元禄14年	徳川光圀に関する逸話を集大成した書、出自から成長の記録もある。
多識編 タシケン	日本	林羅山	1612年 慶長17年	本草綱目に刺激されて著された本草書の一つで多岐に渡る記述がある。
草木六部耕種法 ソウモクリクブコウシュホフ	日本	佐藤信淵	1832年 天保3年	草木栽培は、根、葉、実、皮、幹、花の六部をとることと解説している。
救荒本草 キウコウホンゾウ	中国	周憲王 (周定王)	1406年 明代	明代は天災が多く、救荒書が数多く発刊されたが、本書はその先駆けとなった。
荊楚歳時記 ケイシュザイキ	中国	宗懐 (梁の人)	6世紀ごろ に成立	荊楚地方の年中行事や風俗習慣を記録した世界最古の歳時記。
名語記 ミョウゴキ	日本	経尊	1268年 文永5年	語源辞書、当時の口語、俗語を分類して、イロハ順に配列、問答体で記述。
薬物誌 ヤクブツ	古代 ギリシャ	ディオスコリデ ス	1世紀中葉	全5巻からなり16～7世紀ごろまで世界で利用された薬物誌の古典的名著。
エーベルス・パピ ルス	古代 エジプト	不明	紀元前1550 年頃	全110ページあり、世界最古の医学書。
農業論 ノウギョウロン	ローマ 共和国	執政官大カトー	紀元前2～3 世紀	政治家、前名演説家として著名だが、著述も多く、歴史書『起原論』がある。
本朝食鑑 ホンチャウシヨクカン	日本	人見必大	1695年 元禄8年	江戸庶民の日常の食糧まで言及した本草書で、滋味、食法を詳しく解説。
尺素往来 セキソウライ	日本	一条兼良	1450年頃 室町初期	全文が1通の手紙形式になっており、諸儀礼から日常生活まで用語解説。
本草綱目拾遺 ホンゾウコウモクシユイ	中国	趙学敏	1765年 清代	明代の名著、本草綱目では取り上げられなかった茶などを入れている。
替花伝秘書 カリハダエンヒシヨ	日本	高橋清兵衛	1661年 寛文元年	12ヶ月の花の情報、正しい立花の条文17条が収められた生け花の伝書。
立華正道集 リツカシヤウドウシユウ	日本	尋旧子 (ジンキョウシ)	1684年 貞享元年	室町時代の公的な座敷飾りであった生け花の数ある典範書の一つ。
仙伝抄 センデンシヨウ	日本	末生齊一甫	1816年 文化13年	室町時代の華道の伝書で、挿花の心得と秘伝を江戸時代に出版した。
抛入花伝書 ナゲイルバナダエンシヨ	日本	十一屋太右衛門	1684年 貞享元年	室町時代に生まれた生け花の魁で、後世に大きな影響を与えた花伝書。

[目次に戻る](#)